

こんにちは

代々木訪問看護ステーションサテライト経堂すずらんです。

下肢のむくみのケアの取り組みについて報告します。

高齢者には下肢がむくんでいる方が多く見られます。原因は内科の疾患だけでなく、加齢に伴う筋力低下、ADLの低下、低たんぱく、静脈うっ滞など様々です。下腿の静脈うっ滞性浮腫に併発する皮膚トラブルに潰瘍形成があります。むくみがあると、ちょっとした傷がひどい潰瘍になるケースが少なくありません。こうした潰瘍の手当のために訪問看護が依頼されることが近年多くなりました。



高齢者の難治性潰瘍の場合、薬を使っても処置だけではよくなる事がほとんどです。むくみそのもののコントロールが必要です。それには圧迫療法と運動が欠かせません。しかし、高齢者にはどちらも大変継続しにくい手段です。辛くなく続けられる事、効果を実感できることを大切にケアにあたっています。悪化の予防をしてきたにもかかわらず潰瘍形成してしまい、その後のケアにより改善した事例を紹介します。

ハイブリッド型
弾性チューブ包帯
KチューブTM
スムーズにフィット



- リンパ浮腫等の軽圧迫に...
- 就寝時の圧迫に...
- スキントラブル予防に...
- 日常生活の補助に...
- 静脈疾患予防に...
- ガーゼ等の固定に...
- 外傷創傷からの
お肌の保護に...

切ったり、重ねたり、
用途に合わせて
使い方もいろいろ.....

優れた高機能性

抗菌防臭加工付き	ラテックスフリー	吸湿速乾繊維使用	ソフトな肌ざわり	裏面付れ防止加工
----------	----------	----------	----------	----------

特殊な抗菌剤を使用し、異臭・臭気・MPSA・緑膿菌・大腸菌等への抗菌効果あり

経堂メディカルケア株式会社

90代のAさんは室内生活動作はほぼ自立していますが、日中は椅子に座って過ごす時間が長く、介入当初から下腿のむくみがありました。足浴後マッサージと保湿とともに、むくみの増強を予防するためにチューブタイプの圧迫帯を着用していただいていた。締めつけ感を好まれず緩やかなもので継続していただいていた。

ある日の転倒をきっかけに、わずかなかすり傷から水泡を形成。みるみる水泡が巨大化しました。それだけ皮下に水が溜まっているという事でした。ついに水泡が破けて広範囲なひどい潰瘍状態となりました。皮下の水が出るわけですから、浸出液も滴るほど大量で潰瘍部の痛みも強くありました。

早くよくするには緩やかな維持療法ではなく、適切な圧による圧迫療法と運動療法の併用への切り替えが必要でした。Aさんはやりたくないことははっきり言われる方でしたが、もと技術者で現在もパソコンやスマホを操る理論派です。「これは理論で説得」と、過去の事例を写真でみせながら、圧迫療法と運動療法の必要性を説明。しづしづでしたが、ご家族の支えも得られて了解していただきました。

弾性包帯をしっかり巻いて、メニューを作成し運動を続けました。みるみる効果が出て、潰瘍は劇的に縮小し、下腿もほっそりしました。現在も適切な強度の圧迫帯を継続しています。



気を付けていた事例だけに、私たちもショックでしたが、根拠のあるケアで改善がみられ、何と云ってもAさんの頑張りとお顔に励まされました。これからもむくみをコントロールし、トラブルの再発がないようケアに取り組んでいきたいです。

2024年4月